

Preludio quattro

高機能メディアインポーター《プレルディオ クアットロ》

【おもな特長】

- ◎ 4台の光学ドライブからの同時読み込み
- ◎ タッチパネルによる操作
- ◎ インポート結果のプリント
- ◎ サムネイルや画像枚数を見てインポートする検査・シリーズが選択可能
- ◎ 送信エラー時の自動送信リトライ
- ◎ 3重のチェックで重複インポートを防止
- ◎ DICOM文法チェック機能
- ◎ USBメモリやネットワークからのインポートも可能
- ◎ Firebird にも対応

【おもな機能】

- ◎ DICOMサービス
DICOM Storage SCU /
DICOM Modality Worklist Management SCU
- ◎ セキュリティ機能 (オプション)
ユーザー認証 / ログの書き出し

薬機法には対応しておりません。
アレイの製品は充実したサポートプランが用意されています。
くわしくは、ご利用の販売店またはアレイまでお問い合わせください。

⚠️ 安全にお使いいただくために

- ご使用前に「ユーザーズガイド」をよくお読みください。
- 指定された環境、方法でお使いください。

指定された環境、方法に従わず使用された場合の故障につきましては、保証によるサポートを行うことができない場合がございます。

お客様の声をおきかせください

【ユーザーサポートセンター】

☎️ 0120-502-387

受付時間 月～土 9:00～17:40 / 日・祝日、および弊社休業日は除く

- メールでのお問い合わせはウェブサイトより受付しております

アレイ株式会社 <https://www.array.co.jp>

The Power of Connectivity

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 3-42-10

© 2017-2024 Array Corporation

Preludio quattro ロゴ、Array Corporation ロゴは、アレイ株式会社の商標です。

記載されている会社、製品、サービスの名称は各社の商標または登録商標です。

なお本文中では、TM、®は明記していません。

記載事項は2024年3月現在のものです。

内容、仕様などは改良のため予告なく変更することがあります。

こちらの商品に関するお問い合わせ：

画像インポートだけのために生まれた、 新時代の高速インポーター。



他の施設からの画像ディスクは年々増えています。

《Preludio quattro》は増え続けるディスクに対応した高速インポーターです。

操作は患者さまの情報を選択してディスクをセットするだけ。

4枚までのディスクを同時に読めるため、作業時間を大幅に短縮できます。

またディスクを使わず、ネットワークで画像・検査結果・処方を受信する

Firebird^{*}にも対応しています。

シンプルな操作、高速な読み込み。

画像インポート・エクスポートのエキスパート、アレイだからできた、

これはまさに、新時代のインポーターです。

*オプションです



操作は簡単3ステップ！

step 1 患者さまの 検索

患者IDを入力し、インポートしたい患者さまを検索します。磁気カードリーダー、バーコードリーダーなどの入力機器が利用できます。もちろん手で氏名や性別・生年月日を入力することもできます。



step 2 画像データの 読込

PDIディスクはもちろん、PDI非準拠のディスクやDICOM以外の形式の画像ファイルが入ったディスクでも自動判別して読み込めます。USBメモリやFirebirdからのインポートにも対応しています。



step 3 サーバーへ 送信

PACSサーバーに送信するとき、送信する必要のないシリーズや、シンスライスなどの画像数が多いシリーズをあらかじめ送信対象からはずせます。不要なデータは読み込まないため処理時間を短縮できます。



「詳細モード」の利用で、より柔軟に。

適切なPDIディスクであれば、ほとんどの場合で標準の操作によるインポートが可能です。詳細モードでは、送信する検査・シリーズの選択や、患者情報の編集ができますので、より柔軟に作業ができます。



Firebirdにも対応！

ディスクだけでなくFirebirdからもデータがインポートできます。

オンラインでFirebirdを利用する

施設内システムをファイアウォールなどを介して施設外のネットワークに接続できる場合は、Preludio quattroで直接データをダウンロード・インポートできます。

Firebirdゲートウェイでダウンロードしたデータはディスクの場合と同様に、患者情報を適合理化してPACSサーバーなどに送信します。



USBメモリを使ってFirebirdを利用する

施設内システムを施設外のネットワークに接続できない場合は、USBメモリを使います。

FirebirdゲートウェイでダウンロードしたデータをUSBメモリに書き込みます。

そしてPreludio quattroでUSBメモリからデータを読み取ってインポートします。

Preludio quattroでは患者さまを選択したあと、USBメモリをセット（順序は逆でもかまいません）。USBメモリに入っているデータ一覧が表示されますので、そのなかからインポートしたいデータを選択するとデータを読み込みます。

USBメモリから読み込んだデータはディスクの場合と同様に、患者情報を適合理化してPACSサーバーなどに送信します。

